

# 平成 24 年度 海外臨床薬学研修報告書

「米国薬剤師の幅広い職能について」

---

研修期間：平成 24 年 6 月 10 日～6 月 24 日

研修先：サンフォード大学薬学部

薬学部薬学科 6 年

070973309

岩田 綾香

私は、平成 24 年 6 月 10 日から 6 月 24 日までの 2 週間、アメリカのアラバマ州にあるサンフォード大学薬学部および関連施設における海外臨床薬学研修に参加した。

研修スケジュールは、午前はグループに分かれてサンフォード大学周辺の関連施設である病院や薬局等への訪問見学を行い、午後はサンフォード大学にて講義を受け、その後は訪問見学した施設について学生間での情報共有のためにディスカッションを行うといった内容であった。

私が訪問したのは、Jefferson County Department of Health、St. Vincent's Hospital、St. Vincent's East Hospital、FMS Pharmacy、Homewood Pharmacy、Rocky Ridge Pharmacy、Southern Medical Services、Samford University Drug Information Center であり、特に印象に残った糖尿病教室、病院における薬剤師の役割、医薬品情報の重要性について以下に述べる。

初めに訪問した Jefferson County Department of Health の糖尿病教室では、患者教育用に糖尿病の基礎知識に関することや食事療法・運動療法についてわかりやすく記載したパンフレットが用意されていた。特に食事量については患者自身の手を秤の代わりにスケールとして用いる方法を示しており、朝・昼・夕食でそれぞれ炭水化物やタンパク質、食物繊維をどのようにして適切に摂取するかを一目でわかるようにプレートで図解していた。イラストを使用し、患者の視覚に訴えかける指導の方法は、理解を促すのにとっても効果的であると思った。また、糖尿病患者は高血圧を合併していることが多いため、血糖に関してだけではなく、塩分制限や禁煙の重要性についても説明しており、病識を高めるために薬のみでなく、生活全般の指導をしていることが印象的であった。患者は手軽に血糖測定器を使用できる機会が与えられ、このことから薬剤師は血糖手帳の活用を薦めており、また集団指導だけでなく個人指導も行っていった。さらに、アメリカでは、医薬品の種類によっては、低所得者に対して製薬会社が無償で薬を提供するシステムがあり、多くの患者がより適切な医療を受けられるよう、薬剤師は情報収集に力を尽くしていた。薬の無償提供は、服薬コンプライアンスの改善にもつながり、企業も積極的に医療に参画している印象を受けた。次に訪問した FMS Pharmacy の糖尿病教室では、薬剤師が血糖値・コレステロール・血圧の測定と BMI のチェックを行い、スクリーニングできることがとても印象的であった。これらのことから、薬局における薬剤師は、いかにわかりやすく適切な情報を提供し、どのように患者のために働きかけられるかが重要であることを学んだ。さらに、検査値のスクリーニングや患者教育に携わることができることから、アメリカの薬剤師は日本の薬剤師に比べて患者との距離が近いように感じた。日本でも、薬局において薬剤師が医療機器を使用して検査値のスクリーニングができるようになれば、医師は重症患者に時間を割くことができ、慢性疾患患者においては受診回数の負担軽減となり、現在日本で問題となっている医療費削減にもつながるのではないだろうか。また、アメリカでも日本と同様に患者のコンプライアンス不良が問題となっており、コンプライアンスの改善は日米共通の課題であると感じた。実際に勤務されている薬剤師の方は、「コンプライアンスを改善させることは薬剤師が責任を持っておこなうべき業務である」ということを強くおっしゃっていた。

病院では、薬剤師と医師の距離が近く、共に行動することで薬剤師は医師の考えを身近なところで聞き、情報共有や意見交換を行っていた。St. Vincent's Hospital の Oncology では、医師が薬剤師によく質問し、薬剤師は積極的に医師に対して発言している状況を目にし、両者の信頼関係

が築かれている様子が窺えた。この病院のがん専門薬剤師からは、医師と密接に関わることでCT等の画像を読むことができるようになり、処方オーダーも可能であるという話を聞いた。また、St. Vincent's East Hospitalでは医師レジデントと薬剤師レジデントがチームとなって行動しており、レジデント時代から関わることで共に学習できるので、信頼関係に結びついていくと考えられる。意外なことであったが、アメリカは十数年前まで医師と薬剤師の関係は良好ではなかったという話を聞いた。しかし、薬剤師が自分たちの能力を認めってもらうために、自らの職能をアピールし、不屈の精神で働きかけた結果、現在のアメリカの医師と薬剤師の信頼関係が築かれたようだ。その話を聞き、日本も薬剤師の職能を社会に認知してもらえるよう努力し、職能を広げることで活躍の場が広がっていくのではないかと感じた。そのためには、学生時代はもちろん、職に就いてからも自己研鑽に励み、自ら新しいことに挑戦していく姿勢が大切であると思った。

また、薬物治療には医薬品情報がとても重要である。Samford University Drug Information Centerは、地域の医療施設から支援を受け、地域に医薬品情報を提供するサンフォード大学内の施設である。これにより、地域の医療施設や医療従事者は最新の医療情報を入手することができるため、より適切な医療の提供につながると考えられる。薬剤師は患者と直接関わることはもちろん重要であるが、医療に関わる人に医薬品情報を提供することも薬剤師として重要な役割であると感じた。

今回の研修が修了した際、サンフォード大学薬学部長のSands先生から教えていただいた、Joint Commission of Pharmacy Practitioners(JCPP)の“Pharmacists will be the health care professionals responsible for providing patient care that ensures optimal medication therapy outcomes.”という薬剤師の目指すべきビジョンの言葉が心に残っている。私には薬剤師の在り方が、この一文に集約されているように感じられる。そして、薬剤師として患者に最善な薬物療法を提供するという目的は共通であるが、アメリカと日本は文化や社会的背景も異なるため、日本は全てにおいてアメリカの後を追うわけではなく、独自の発展も遂げられる可能性があるとは私は考えている。そのためには、薬剤師一人一人がよりよい医療を提供するにはどうすればいいのか常に念頭において行動することが必要であると思う。

総じて感じたことは、アメリカの薬剤師は仕事に誇りを持っているため自信を持って行動しており、新しいことへの挑戦を恐れていなかったということであった。国民性もあるかもしれないが、やはり知識を備え、地位を確立したことによって活躍につながっているように思う。

今回の海外臨床薬学研修を通じて、異文化に触れたことや、実際に異国の医療現場で薬剤師の活動をみることは、とてもいい機会であった。様々な施設を訪問させていただいたことで、薬剤師は、患者だけでなく、医師をはじめ他の医療従事者から信頼される地位を確立し、社会的に認知されることが重要であると感じたと同時に、薬剤師として幅広い職能の可能性を発見できた。今後、薬剤師として働くための課題や目標を持つきっかけとなる有意義な海外研修を経験することができたと強く思う。